

道新に掲載された旭川高専関係者の活躍情報 (学校中心の第二報) 2002/03/02

2002/05/16改

おこわり

著作権の関係で見出しの紹介程度の内容になっていることを予めお断りしておきます。又、当ページでの掲載順は不定です。

NEW 波力発電の実験進む* 旭川高専と谷口さん共同

北海道新聞夕刊地方 掲載日 :2002/03/27 ページ :9

旭川高専が本年度初めて導入した外部との共同研究の第一号として、波力を利用したタービン発電システムの実験が進められている。

旭川市神楽四ノ〇の居酒屋経営谷口茂さん(52)が特許出願中のシステムが研究対象で、同高専機械工学科の遠藤剛教授がエネルギーの発電効率などを検証している。

谷口さんの波力発電の原理は、海岸部にタービンを設置し、波の動きに合わせて上下するピストンが空気流を生じさせ、それを受けてローターが回転する。

タービンは寄せる波と引く波の双方で一定の方向に回り、自動車のライトがつくまで発電が可能になっている。

NEW 産官学共同研究に力* 技術開発相談が好評

北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2002/03/13 ページ :25

旭川高専が、地場企業や行政と連携して新製品や新技術開発に取り組む産官学共同研究に力を入れている。昨春開設した地場企業を対象にした「技術開発相談室」の利用も順調だ。

産官学の共同研究は、文部科学省が打ち出した高専の地域貢献策の柱。

釧路高専や苫小牧高専には、研究を進める拠点として地域共同センターが設置されており、工業系四学科を持つ旭川高専も、二〇〇三年度にも開設を予算要求する方針。

企業との共同研究は《1》波力発電実験 《2》生産工程管理システムのオンラインソフト開発の二件がある。

同校は「地元にはOBやOGが約九百人おり、その人たちとの連携も深めたい」としている。

旭高専 Aチーム優勝* 函館で高専ロボコン

北海道新聞朝刊全道 掲載日 :2000/11/06 ページ :29

ロボット作りの技術を競う「アイデア対決 全国高等専門学校ロボットコンテスト2000」(高等専門学校協会連合会など主催)の北海道地区大会が五日、函館市民体育館で開かれ、旭川高専Aチームが優勝した。

高さの違う四本の円柱(直径十センチ)の上にロボットを使ってオリジナルの造形物を置き、競技で、三分の制限時間で得点を競った。

<友・YOU・遊 学園> 旭高専が地場企業支援に力* 技術開発相談室を開設

北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2001/07/11 ページ :23

旭川高専(吉田宏校長)は今年、企業の技術向上を後押しする「技術開発相談室」を開設し、産学協力を力を入れ始めた。すでに企業からの相談が寄せられており、専門技術を持つ研究者がアドバイスをを行っている。

機械工学、電気工学、制御情報工学、物質化学工学の四つの専門学科と、さらに二年間学ぶ専攻科などの研究者が委員となっている。

これまでに寄せられた相談は計九件で、《1》融雪機の性能向上 《2》水道管のバルブの亀裂に関する原因分析 《3》工作物の強度を増すための構造設計 - など

旭川高専 加藤君* 工業英検4級 全国で最高点* 「卒業までに2級も」

北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2000/03/10 ページ :20

旭川高専電気工学科三年の加藤紀雄君(18)が、昨年十一月に行われた工業英語検定四級の部で全国最高点で合格した。

同検定は工業技術者に必要な英語力を試す検定。四級から最難関の一級まであり、国際技術者として必要最低限の工業分野の英単語力を競う。

同校では、原則的に三年生になると、同検定を受験する。

珠算の読み上げ算十段 * 双子そろって合格 * 旭川高専 清水兄弟 * 「次は全道上位」

北海道新聞朝刊全道 掲載日 :2000/12/08 ページ :33

珠算の段位では最高の「読み上げ算十段位検定試験」(主催 全国珠算教育連盟)で、旭川高専三年の十八歳の双子の兄弟、清水信二君と貴文君がこのほど、そろって合格を果たした。二人を指導している旭川市内の珠算塾代表、舟橋三郎さん(64)は「双子と一緒に十段を取得した例は聞いたことがない、全国でも珍しいのでは」と話している。

今年春には珠算関係者の招きで渡米し、ロサンゼルスなどで現地の青少年と珠算を通じた交流をしてきた。十段位検定試験では、最高十六けたまでの数字十数個を加減する問題が十題以上、早口のテープで流され、全問を正解しないと合格できない。正確さと速さに加え、集中力が要求される試験だった。

英語ニュース教材に旭川高専が市民講座

北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2001/08/23 ページ :22

旭川高専(旭川市春光台二ノ二)は、市民対象の公開講座「英語ニュースを聞く」を九月五日から、同高専で開講する。

旭川高専の中村名誉教授 * 留学予定者に物理学指導 * マレーシアへ出発

北海道新聞夕刊地方 掲載日 :1999/04/16 ページ :13

旭川高専名誉教授の中村敏明さん(64) = 旭川市春光台三ノ二 = が、マレーシアの工科大学予備教育部で日本への留学予定者に物理学を教えるため、文部省から一年間にわたり派遣されることになり、十六日午前、旭川を出発した。

マレーシア政府から派遣され日本の高専で学ぶ留学生は毎年八十 - 九十人。旭川高専でも一九九三年度から受け入れており、本年度も五人が学んでいる。

中村さんは同高専で物理学を教え、昨年三月に退官したが、その後も非常勤講師として週二回、講義を受け持っていた。

首都クアラルンプールのマレーシア工科大学予備教育部で日本の高専への留学準備のため、一年間の日本語学習を受けた学生に物理学を教える。期間は一年間の予定。中村さんは出発に当たって、「マレーシア人の留学生は国から派遣されていることもありとても意欲的。学生が日本に留学した時、スムーズに日本の工学の勉強に入ってもらえるよう、しっかりと教えたい」と話していた。

旭川高専の彫刻講座

北海道新聞夕刊地方 掲載日 :2000/08/16 ページ :9

旭川高専は圧縮空気での物質を削り取る技術「サンドブラスト」による彫刻の公開講座を開催する。

「溶接」「テニス」旭川高専が講座

北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2000/01/19 ページ :21

旭川高専は「溶接体験入門講座」と「初心者のための硬式テニス講座」の受講者を募集している。溶接体験講座は大西宣弘機械工学科助教授らが溶接の基本と安全対策について指導する。

家族で食事するラオス懐かしい * 留学生が日本語発表

北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2001/11/26 ページ :25

旭川市内に住む留学生が文化や生活習慣の違いなどについて語る「外国青年日本語主張発表会」が二十五日、旭川勤労者福祉会館で開かれた。

米、中、マレーシア、ラオスの四カ国から旭川医大や教育大旭川校などに留学中の五人が参加した。

旭川高専で電気工学を学んでいるラオス人のケンウイ・ピット・スターリンさん(21)は、日本では夕食でもファストフードで済ませる若者が多いことに触れ「家族みんなで食事するラオスが懐かしくなった」と語った。

学校が地元の小・中学生を対象に開催した各種講座

< インターネットの基礎知識を学ぼう > 北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2001/07/13 ページ :24
旭川高専はインターネットに関する基礎知識を学ぶ「小中学生のためのwww活用講座」を同高専で開く

一日目はインターネットのさまざまなホームページ(HP)の閲覧を行い、二日目はHP作成法を学ぶ。

< ロボット作り体験を*旭川高専の講座 きょうまで募集 > 北海道新聞朝刊地方 掲載日 :
2001/07/19 ページ :24

旭川高専は、理数のおもしろさを小中学生に体験してもらおうと、初の試みとして多彩な公開講座を行う

このうち「楽しいロボット作り講座」は中学生十人を対象に行う。サッカーゲームをイメージして設計されたロボットの一部分を組み立てて、実際に操作する。

< ロボットを作ろう > 北海道新聞朝刊地方 掲載日 :2000/07/22 ページ :21

旭川高専は八月十日、地域開放事業「ロボットづくりに挑戦」を行う

夏休みの小学五、六年生を対象に同校の教官や学生がアドバイスをして白い紙に描かれた黒い線をたどって動くロボット「ライントレーサ」を作る。

< コンピューターで立体画像楽しもう*高専で中学生講座 > 北海道新聞朝刊地方 掲載日 :
2000/07/25 ページ :20

旭川高専は中学生を対象にした公開講座「三次元のコンピュータグラフィクス」を同校で開く

コンピューターの画面上に自分の好きな形をした立体を作成。その立体に色を付け、光を当てるとどのように見えるかコンピューターに計算させて画面に表示するなど、コンピュータグラフィクスの楽しさを体験する。